大磯 暮らし

TAKE FREE

VOL. 03

2019

OISO

さあ、大磯で君の物語をはじめよう

特集

大磯ならではの魅力と出合う。

新旧さまざまなイベントやお祭りが満載の大磯町。
町の歴史や風土、そして暮らしを楽しむヒントを探しに行こう。

大磯町ってどんなまち？

大磯町をつくる9つの価値観
大磯町を知ろう！

大磯町新たな観光の核づくり推進協議会

OISO LIFE

特集

大磯ならではの魅力と出合う。

大磯では、古くから受け継がれてきた文化と歴史を大切にしたお祭りや、これまでにない新しい視点で形づくられたイベントなど、数多くの催し物が行われています。この町での暮らしをもっと楽しむために、お友達やご家族と一緒にイベントを訪れてみませんか？きっと、素敵な笑顔と物語に出合えるはず。

① 相模国府祭

さがみこうのまち

sagami kounomachi

国府祭のはじまりは今から一千年以上前、地方に国、郡の制度が定められていた時代に、相模国の行政の長、国司が相模国の天下泰平と五穀豊穣を神々に祈願したものといわれています。神揃山では、相模国の成立にあたり論争の模様を儀式化した神事である座問答が行われ、大矢場（現馬場公園）では、国司祭や三種類の舞が奉納されます。神奈川県無形民俗文化財のひとつ。

WEB: http://www.rokusho.jp/saiji/saiji.html

一千年以上、続いてきた誇り。複数年通うことで見えてくる、奥深い祭りを知る。

ちまきを手にした見物客が神揃山へと急ぐ。毎年5月の国府本郷で目にすることができる風景のひとつ。

「同時進行でさまざまな神事が複数箇所で起こるお祭りは日本中でもかなり珍しいんです。たった1日だけでは全部を見ることはできないし、ぜひ2年、3年と来ていただきたいですね」

相模国総社・六所神社の禰宜、柳田さんはそう言って笑う。神事が千年もの間引き継がれてきたことも、貴重であり珍しいのだとか。

「旧相模国の主要六社とされる神社が参加しているのですが、それぞれがそれぞれの役割をしっかりと執り行い、ひとつの相模国府祭となっています。私たちも自分たちの神事で手一杯なので、他の神社さんの様子を見る時間もないのですが（笑）」

3月頃から神揃山や神輿が通る道の清掃活動が地域総出ではじまる。

「先代達がひとつひとつ繋いでこられた結果、今がある。我々はたまたま今、そこに関わらせていただいていると思ってます。氏子の方や地域のみなさんがこの祭りを誇りに思ってくださり、さまざまな点でご協力をいただいて、執り行える神事なんです」

国府祭は、相模国の天下泰平と五穀豊穣を祈るお祭り。そういった普遍的な祈りが中心にあることが尊くもあり、魅力ではないかと柳田さんは言う。

年に一度、相模国の神々が集う国府祭。古の空気を感じに一度と言わず、複数年に渡り足を運んでみてはいかがでしょうか。

Day

毎年 5月5日（祝）

Place

国府本郷の神揃山及び馬場公園

（1）神揃山で行われる「座問答（ざもんどう）」。相模国が成立したのち、寒川神社、川勾神社のどちらが一宮かを決める神事　（2）2018年、天皇陛下御即位30年をうけ各社大神輿が集結。大矢場【現馬場公園】は活気に満ちた。お参りの方々にはちまきが配られる　（3）六所神社禰宜を務める柳田さん。鶴倉鶴岡八幡宮に15年務めた後、六所神社へ。大磯の温暖な気候が好きだと笑顔で　（4）一度は途絶えた舞の伝承を20年ほど前に復活。現在、伝承者は少ないというが、鷺、鬼、獅子の舞は優美であり必見である

② 大磯オープンガーデン

おおいそおーぷんがーでん

oiso opengarden

春の週末、大磯全域約120ヶ所の庭や店さきを楽しむ大磯オープンガーデン。町中が垣子を手に花を楽しむ人々で賑わう。合わせて開催される大磯アフタヌーンティーでは各飲食店の期間限定のお菓子やお茶を楽しむことも。また、ツアーガイドによるオープンガーデンツアーも人気の企画。

WEB: http://open-garden-oiso.wixsite.com/home

Day

毎年 4月・5月の週末各3日間

Place

オープンガーデンに参加する大磯町全域の個人宅やお店など

起伏に富む大磯丘陵を舞台に、美しい草花に出合う一日。歩きながら、大磯各エリアの庭のある暮らしを堪能。

「インスタ映えするかしら？」

庭を案内しながら、かわいく笑う広橋さん。2007年からオープンガーデンの参加者として庭を開放してきた。

「毎年足を運んでくれる方もいるんです。スイートピーの種をお分けしたり、花友になったり。いらっしゃった方々との交流も楽しみのひとつです」

広橋さんの庭のある石神台は、大磯駅からバスで15分ほど。緩やかな高台に閑静な住宅が並び、庭越しに大磯の海も見ることができるエリア。

「この場所は少し登っていただかないと来れない場所。せっかくお越しいただいた方々にはお茶をお出しすることもあるんです。休憩も兼ねて、ゆっくりしていただけたらと」

大磯駅を降りて石神台とは逆、大磯山の手・高麗エリアへ足を運んでみる。住宅街を少し進んだところで、色とりどりの花やハーブがまるで花園を連想させる庭に出合う。大磯に暮らして50年、庭づくりをはじめて20年という柳澤さんの庭だ。

「昔はこの辺りも大きなお庭が多かったんです。旧道では植木市があったり賑やかだったんですよ。オープンガーデンでみなさんがお庭を楽しむ雰囲気が当時のようで嬉しいですよね。また来年も頑張ろうって思うんです」

変わりゆく風景があっても年に一度、庭を通じて人々が集うこの時を楽しむ。

「オープンガーデンというとイングリッシュガーデンが流行りですが、大磯はそれぞれの個性が存分に出たお庭が多いですね」「起伏があるお庭や木立があったり。山も海もあって背景も美しい。多くの方に足を運んで、大磯の町を楽しんでいただけたらと思います」

と運営委員の大倉さんと岩田さん。春の香りを感じたらお好みの庭を探しに大磯オープンガーデン、あなたも一緒に行きませんか？

（1）石神台の広橋さんのお庭。家の裏側の斜面のモダンな階段とその両脇を埋め尽くすように植えられた小花たちが印象的。その向こうには大磯の海が光る　（2）オープンガーデンのパンフレット。年々参加する人が増え、見やすいマップづくりを検討、ブラッシュアップされてきた　（3）庭で笑う広橋さん。「年に一度準備のために東京、横浜の友達が集まってくれるんです」　（4）各庭にある小さな看板が目印　（5）毎年バラが美しく咲く山田さんの庭　（6）毎年オープンガーデンを楽しみにしている柳澤さん。「最近では無理をせず、できる範囲で参加しているんですよ」

とっておきの夏の思い出をつくろう！大人たちが全力で教える海の魅力。

8月の大磯港の朝8時。すでに多くの子ども達や親、黄色のTシャツが眩しいボランティアスタッフが集っている。

各会場へ移動したら教室のはじまり。港には大きなヨットがとまり、照ヶ崎のプールではスノーケリングの練習風景が広がる。事務局の蒲原さんははじまりについてこう話す。

「いそっこ海の教室は実行委員会形式。ひとつの団体が単独でやるというのではなく、みんなで協働し合って運営しています。そもそも大磯町の小、中学校にはプールがなくて、子ども達に正しい体験を教えて、安全に海を楽しんでほしい、そんな思いからはじまりました」

2018年実行委員会会長を務めた浅野さんも頷きながら話す。

「僕はラフティングで世界のいろいろな川を見てきましたが、日本の河川の使われ方には違和感があって。水をできるだけ生活から遠ざけてしまってますよね。だから、いそっこを通じて、海・川での体験を楽しんで、子ども達に自然からいろいろと学んで欲しいんです」

ウェットスーツなど、機材の提供も活動に賛同する企業や団体の協力を得て毎年開催されている。

教室を体験した子どもが青年になってボランティアとして戻ってくることもあるとか。

「カムバックサーモンではないんですけど（笑）子ども達が大磯の町をもっと好きになって、ずっとこの町で暮らしたい、自慢に思ってくれたら嬉しいね」

と蒲原さん。大切な大磯の夏の思い出がここから生まれている。

③ いそっこ海の教室

いそっこうみのきょうしつ

isokko uminokyoushitsu

「もっと海をエンジョイしよう」そんな合言葉から 2005 年にスタートしたいそっこ海の教室。魚のさばき方からスノーケリング、ボディーボードなどのアクティビティが体験でき、毎年 80 人を超える参加者が大磯の海を楽しみ尽くすイベント。小学３年生以上であれば大磯町民ではなくても、誰でも参加できるのも魅力のひとつ。夏の眩しい日差し降り注ぐ大磯港に今年もたくさんの笑びと笑い声があふれます。

WEB: http://isokko.wixsite.com/home

Day
毎年 7月or8月

Place
大磯港・照ヶ崎海岸
北浜海岸

（1）人気のボディボード教室。真剣な表情の子ども達も、波に乗ったら満面の笑顔に　（2）大きなヨットで相模湾をクルーズ。海側から大磯の山を見る貴重な時間　（3）教室の中には、大磯港ならではの、漁業体験コースも。魚のさばき方や雑魚の放流・定置網見学など、盛りだくさん　（4）蒲原さん（右）と浅野さん（左）。実行委員会会長は持ち回りスタイルで前年度の方の指名制。真夏の炎天下の活動は本当に大変だと蒲原さん。写真は当日のランチタイムの後で、笑顔の二人　（5）スノーケリング教室では、プールでのレクチャーの後に、照ヶ崎の磯場で実際に海の生物を観察へ

Day
毎月第３日曜日

Place
大磯港

④ 大磯市

おおいそいち

oisoichi

毎月第３日曜日に大磯港で開催される大磯市。大磯の港であがった獲れたての魚や、地域色豊かなフード＆ドリンク、湘南エリアで活動する作家達のクラフトアイテムなど、総勢190店舗が出店する朝市。大磯二宮漁業協同組合や観光協会、商工会、町内のＮＰＯなどでつくる大磯市実行委員会の主催。通常は朝9時から14時までの開催だが、毎年7月から9月の間は17時～20時半の夜市に。昨年12月に開催１００回目を迎えた。

WEB: https://www.oisoichi.info/

湘南を代表する朝市へ成長した大磯市。毎月開催だから、はじめて訪れる人でも安心。

（1）出店者、来場者で埋め尽くされる大磯港。都からのアクセスの良さもあり、都内からの来場者やリピーターも多い　（2）クラフト作家として出店しているAtelier xさん。作品はさまざまな木材を組み合わせて、模様や絵を描く「木象嵌」。古くから使われている足踏みイトノコギリで実際に目の前でプロダクトが作られている様子を見ることができる　（3）大磯市を巡りながら、朝食やランチを芝生で楽しむ　（4）実行委員長で大磯二宮漁業協同組合組合長の加藤さん（右）と実行委員の原さん（左）。親子ほどの世代間が逆にいいと笑顔　（5）旬の魚が朝獲れで買えるのも大きな魅力。毎回整理券を配るほどの盛況振り

月に一度だけのスペシャルパーティー、そんな言葉も聞こえてくる大磯市。９時には朝獲れの魚を待つ人の長蛇の列、朝ごはんを食べる人、出店者同士の挨拶の声、さまざまな賑わいに港が包まれる。２０１０年９月のスタートから今年で９年。毎回５０００人規模の来場者があり、神奈川県最大級の朝市と言われるほど。

実行委員長で大磯二宮漁業協同組合組合長の加藤さん曰く、イベントにここまで開放する港も珍しいとか。

「相模湾で魚の朝市をはじめたのは大磯が１番。もう23年経つ。当時は、１トン半くらいの魚が30分で売れちゃう。それぐらいすごかった。でもだんだん人が減ってきてね。実感として大磯に港があることをあまり知られてない気がしてた。だから、港にまた人が集まるようになって嬉しいよね」

賑わいを取り戻し、さらに元気ある漁港への変貌を喜ぶ加藤さん。

「大磯市は９年続けて、やっとイベントから日常になってきましたね。月に一度、港で日々のあれこれの話をシェアしあう。地域の中で豊かに暮らすには、楽しいコミュニティが大事だったりすると思うんです。来場者数、観光客が増えたってことよりも、この朝市があることで大磯の人が楽しく暮らせたら最高ですね」

と話すのは、実行委員の原さん。何度か足を運ぶうちに、町に知り合いが増えて、日常に挨拶が生まれる。芝生エリアでは音楽やダンスのパフォーマンスも開催され、親子や友人達と待ち合わせてピクニック気分も。

何気ない日常を楽しく過ごす。大磯の朝を楽しんでみませんか？

5 大磯宿場まつり

おおいそしゅくばまつり

oiso syukubamatsuri

江戸時代に整備された五街道のひとつ、東海道にあった53の宿場を指す東海道五十三次。大磯は日本橋から8つ目の宿場として、古くから数多くの旅人達が行き交う交流拠点として有名です。その大磯宿の面影が色濃く残る山王町の松並木を舞台に開催されるのが大磯宿場まつり。東海道の宿場の名産が集い、さまざまな宿場の味を楽しんだり、舞台では和太鼓や三味線、落語などを楽しむことができます。

WEB: http://www.town.oiso.kanagawa.jp/isotabi/matsuri_event/matsuri/syukubamatsuri.html

Day
9月（予定）

Place
旧東海道山王町
松並木

宿場町ならではの賑わいと誇りを次の世代へ引き継ぐ。

「ここは江戸時代？」宿場まつりのこの日、山王町の松並木には笠を片手にした旅人や町娘、道端には物乞いまで、江戸の宿場そのものの風景が広がる。道の両脇には数多くの出店が立ち並び、行き交う人は一日中絶えず、多くの来場者がこの時間を楽しみに訪れる。美味しい食べ物に舌鼓し、三味線や口上に耳を傾け、宿場町としての大磯の日常にトリップする感覚を存分に味わう。

昨年で開催から25回を迎えた。初期のころから実行委員に携わり、委員長の経験もある亀田さんは宿場まつりの魅力をこう話す。

「まつりのコンセプトに寄り添いながら、各々が思い思いのやり方で楽しみながら参加するスタイルなんです。当初から、完全にボランティアで運営されてきました。ここ数年はメンバーの高齢化などで取りやめてしまっているんですが、有志が集い花魁道中をやったり。今でも『今年は、花魁道中はないの？』なんて楽しみにしてくれる人もいて。地域のみんなで協力し合って、継続しているんです」

まつり会場中程に設けられる「宿場神社」も楽しみながら続けていくポイントだとか。ご利益はないねと言い合いながら、みんながお賽銭を入れ、手をたたく。集まったお金は次回の開催資金として大切に活用している。

最近は、海外の方が着物をきて江戸気分を味わう姿も増えているとか。

「貸し着物のサービスなど取り入れて、楽しみながら大磯を知ってもらう。ヨーヨー釣りなんて初めてやると面白いでしょ。これからもみんなが楽しめるお祭りとして続いていけばいいなと思います」

かつて、宿場町として栄えた大磯の歴史を大切にしながら、その面影を次の世代へ繋いでいく。江戸の衣装に身を包み、とっておきの名産品を味わいながら、「宿場神社」で明るい未来を願う。大磯暮らしの醍醐味がここにある。

（1）NPO法人大磯だいすき倶楽部が主催したまち歩きツアーに参加したStahlheberさん一家。子ども達にとっても楽しい一日に　（2）宿場の寄席「郭多里座」には柱歌助さんが出演したことも　（3）まつりの期間中のみ建てられる関所と提灯　（4）2016年の花魁道中の様子　（5）実行委員長の百瀬さん（左）と、実行委員の亀田さん（右）。「せひたくさんの方々に宿場まつりを通して、大磯の魅力を知っていただけたら嬉しいですね」と百瀬さん

圧倒的なビジュアルで人々を魅了する、漁師町のカルチャーが作り上げた、火祭り。

大磯の左義長はただの火祭りではない。そう話すのは、左義長保存会会長の芦川さんだ。

「年の瀬の『一番息子』からはじまり、他にも各家庭でお飾りを作ったり、竹を取りにいったりと、この辺りの暮らしに溶け込んでる文化なんです。もともと道祖神信仰のお祭りなんですが、子どもから長老まで参加する。そして年明けのセエトバレエに向けて、粛々と儀式を重ねる。そこを含めて左義長なんですよね」

各地区で独自の文化を継承しつつ、今に至る左義長。地元の中学校の行事に準備体験を取り入れたり、寄付を募るグッズの販売など、この地に息づいてきた文化を残していくためにさまざまな取組みを行っている。

他の地区より世帯数の少ない浜之町にある東光院の住職、大澤さんと寺務の古井さんも左義長存続に尽力する存在だ。2014年、存続のための応援団を立ち上げた。「地区の世帯数が少ないため、大学生など祭りに興味を持ってくれた町外の方々が、一緒に活動できる組織を立ち上げました。お飾り集めから、サイトづくりまで、なんでも手掛けています。当日は、隣の地区の先輩方に縄の結び方を指導してもらったり。何年経っても、往年の漁師の方々にはかないません（笑）」

左義長の真の魅力と出合うため、12月初めの早朝、下町へ訪れてみてはどうだろう。路地裏に響く「一番息子！」の声を聞きながら、江戸時代から続く伝統と文化に想いを馳せる。きっと、大磯暮らしがもっと楽しくなるはず。

6 大磯の左義長

おおいそのさぎちょう

oiso no sagichou

400年の歴史を持つともいわれる大磯の左義長。大磯の下町では、年末、「一番息子」を皮切りに「道切り」「七所参り」「お仮屋」と昔から伝わる儀式を経て、小正月のセエトバレエへと向かいます。当日は北浜海岸沿いの9地区が家内安全、無病息災を願いサイトを立てます。そして夕刻、市方の方角から火点け。高さ8mにも及ぶサイトから立ち昇る火柱は大磯の夜空を照らし、その迫力は圧巻そのもの。国の重要無形民俗文化財でもあります。

WEB: http://www.town.oiso.kanagawa.jp/isotabi/matsuri_event/matsuri/sagichou.html

Day
毎年 1月上旬

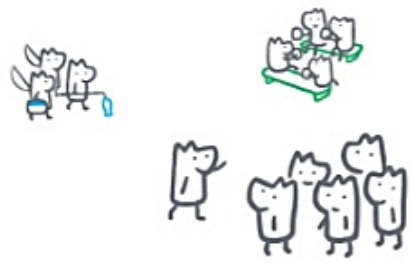
Place
北浜海岸

（1）昼間のセエトバレエの富々しい姿　（2）一番息子の様子。ゴロ石と呼ばれる縄付きの石を持った子ども達が家々をまわり、家人の厳いを大きな声で唱える　（3）子ども達が道祖神さまを囲んで逃ふ「お仮屋」。各地区のお仮屋をお参りすることを七所参りと呼ぶが現在はひとつ減え、「七所参って八所（ヤアトコ）せ」ともいう　（4）ソリ型の台に扇骨を閉じ込めるため入念に縄を編んでいく「仮宮」の制作風景。セエトバレエが燃え盛った頃にはじまるヤンナゴッコの主役の1つ。このソリを地域の若い衆たちが、海に引き入れ、その後町中を引き回す姿は圧巻　（5）東光院の大澤さん（右）と古井さん（左）。本堂では映画会「大磯の左義長の今と昔」の上映も　（6）大稀竹（おんべたけ）に正月飾りや書き初めが飾かれ、燃え上がるサイト。田舎暮らしを体験できる「大磯農園」の藁を使う地区もあり新しい繋がりも生まれている

大磯町をつくる9つの価値観

1．自然との共生

2．つながり



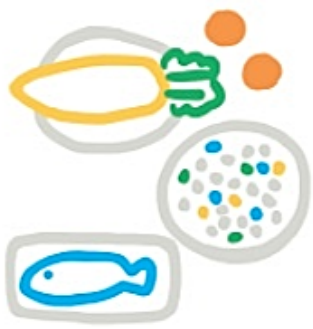
3．文化の継承

4．地元優先

5．独自性

6．手づくり

7．地産地消



8．歩いて楽しい

9．創造

大磯町新たな観光の核づくり推進協議会

この協議会は、大磯町の観光関連 22 の団体や企業が中心となった組織です。大磯町における観光とは、町内で暮らす人々が感じる町の魅力を自ら発信して、その発信をきっかけに大磯町を訪れる人を増やしたり、訪れた方々がその魅力に触れることで、将来的に移り住みたいなと思っていただけるような、そんな町を目指して、日々活動に取り組んでいます。

協議会メンバー紹介

東日本旅客鉄道株式会社、大磯プリンスホテル、大磯飲食店組合、大磯逸品の会、
（公財）神奈川県公園協会・湘南造園株式会社グループ、NPO 法人大磯ガイド協会、
NPO 法人西湘をあそぶ会、大磯二宮漁業協同組合、湘南農業協同組合、
株式会社ランナーズ・ウェルネス、学校法人東海大学、おおいそオープンガーデンホーム運営委員会、
NPO 法人大磯だいすき倶楽部、神奈川中央交通株式会社、大磯港みなとまちづくり協議会、
星槎湘南大磯キャンパス、大磯町区長連絡協議会、神奈川県湘南地域県政総合センター、
神奈川県平塚土木事務所、（公社）大磯町観光協会、大磯町商工会、大磯町

以上　順不同

『大磯暮らし』をご覧のみなさまへ

今年も『大磯暮らし』をみなさまにお届けできることを嬉しく思います。このフリーペーパーは、大磯で生活し、地域でさまざまな活動に関わっている方々を通じて、大磯らしい暮らし振りを発信するために制作しております。紙面でご登場いただいたのは、『大磯町をつくる９つの価値観』と深い関わりをお持ちの方々です。ご覧になったみなさまが、改めて大磯町の魅力に気づいてくださったり、また、これをきっかけに大磯町に興味を持ち、訪れていただけると幸いです。

◎『大磯暮らし』をご覧になりたい方は isotabi.com で検索ください。

大磯町を知ろう！（平成31年2月1日現在）

人口	世帯数	面積
31,395 人	12,589 世帯	17.23 k㎡

アクセス

（JR東海道本線）

約 40分　横浜 → 大磯

約 55分　品川 → 大磯

大磯暮らし

<発行> 大磯町新たな観光の核づくり推進協議会
事務局：大磯町 産業環境部 産業観光課
〒255-0003　神奈川県中郡大磯町大磯1398-18　TEL.0463-61-4100（内線334）　Eメールアドレス kankou@town.oiso.kanagawa.jp
●企画・編集・デザイン　森川正信　●取材・文　たけいしちえ　●撮影　八幡宏